



# 絆

きずな

平成26年6月  
第42号  
荒川区立南千住第二中学校  
校長 齊藤 進

ナンちゃん・ニーくん



## クールジャパン:日本が誇るおもてなし文化 (修学旅行でのひとコマ)

校長 齊藤 進

5月16日から18日まで修学旅行で京都・奈良へ行きました。天候に恵まれ、生徒全員が体調を崩すこともなく、全行程を終えることができました。古都の観光名所見学だけではなく、雅楽や舞妓さんの踊りの鑑賞、漆器塗りなど貴重な体験をすることができました。生徒にとって多くの思い出が残る修学旅行となりました。

さて、二泊三日の修学旅行で感心したことがありました。それは二日目に宿泊した奈良パークホテルのおもてなしの素晴らしさです。従業員の方々の仕事に対する真摯な姿勢や温かいものを食事の直前に配膳するなど、かゆいところに手が届くきめ細かな心配りに頭が下がる思いでした。営業部長の方からは従業員の方々が喜びと誇りを感じながら仕事に従事しているというお話がありましたが、まさにその通りだと思いました。また、お話をうかがいながら、宿泊客の要望をホテル経営に生かそうとする姿勢を感じました。社長以下、従業員総出による天平の歴史を感じさせる衣装での出迎えや見送りにはこちらが恐縮してしまうくらいでした。これほどのおもてなしは個人や団体旅行を含めて初めての経験といっても過言ではありません。

おもてなし

奈良パークホテルは昨年からの修学旅行生の受け入れを始めましたが、昨年は学習院の修学旅行で愛子様がお泊りされたそうです。こうしたおもてなしの姿勢が評価されたのかも知れません。

今、クールジャパン(Cool Japan)という言葉がメディアを通して広がりを見せています。クールジャパンとは、日本のゲーム・漫画・アニメなどの近代文化、現代の食文化・ファッション・建築、武道・日本料理・茶道・華道・日本舞踊など日本の伝統文化が国際的に評価されている現象のことを言います。

近年、こうした日本の素晴らしい文化が海外から高く評価されていますが、そうした伝統文化で忘れてはならないことがあります。それはお客様を大切にする「おもてなし」の心です。そこには、相手の気持ちを理解し、相手を尊重する姿勢があります。商品をドアまで持参し、ドアを開けて送り出してくれる店があります。私は、ある商品を買うときは必ずその店を利用することに決めています。外国人はこうした心遣いは海外では見ることができない、日本独特のすばらしい文化だといえます。

先述したホテルでクールジャパンを体験し、「おもてなし」を日本が世界に誇る文化として受け継いでいくことの大切さを感じました。

## 第26回 運動会

5月31日(土)、南千住二中第26回運動会が晴天のもと実施されました。

今年度の運動会は、3学年が全て3クラスでそろったこともあり、1組は赤、2組は白、そして3組は黄色という色別対抗形式で行われました。新種目も登場し楽しく盛り上がった運動会になりました。

開会式では生徒会長(3-1 女子)、校長先生、PTA会長さんのあいさつにつづき、運動会実行委員長(3-1 男子)の力強い選手宣誓、さらに吹奏楽部の演奏で校旗が掲揚され運動会の幕が切って落とされました。



午前中は、全生徒が走る短距離走、1年生学年種目「南二のわたしと大鯉」、新種目の色別対抗棒引き、2年生学年種目「笑顔で団結(大縄跳び)」、3年生クラス全員リレー、選手による長距離走(女子1000m、男子1500m)などが行われました。保護者・来賓競技の大綱引きにもたくさんの方に参加していただきました。

午後の部のはじめには各色の応援団長が紹介されました。団長を中心に気合いを入れて競技が再開されました。午後の競技は色別で戦う綱引き、1年生、2年生のクラス全員リレー、圧巻の3年生学年種目「大ムカデ」、そして運動会の花形、リレーが行われました。リレーは各学年の学級対抗と、1年生から3年生まででバトンをつなぐ色別対抗リレーが行われました。色別対抗リレーを制したのは黄色(3組)でした。

総合優勝の行方は混沌としていましたが、栄冠を手にしたのは赤組(1組)でした。結果発表とともに会場は歓声と拍手に包まれました。優勝した赤組応援団長(3-1 男子)には優勝旗が、各クラスには賞状とカップが授与されました。南千住二中にとってとても大きな成果をもたらす、素晴らしい運動会になりました。

運動会に際しては、保護者、地域の皆様にも大変ご協力をいただきました。近隣の方にも早朝から大音量の放送など、大変ご迷惑をおかけいたしました。ご理解・協力ありがとうございました。



優勝旗授与



各色応援団 左から赤組・白組・黄組



選手宣誓↑とラジオ体操↓

1年生学年種目

2年生大縄跳び

3年生大ムカデ

《 運動会の記録 》

短距離走タイム学年ベスト3	1年女子 3組女子 11"17	3組女子 11"26	3組女子 11"32
1年男子 2組男子 10"06	2組男子 10"47	2組男子 10"97	
2年女子 3組女子 10"72	2組女子 10"94	1組女子 11"00	
2年男子 3組男子 10"01	2組男子 10"16	1組男子 10"24	
3年女子 2組女子 10"32	3組女子 10"76	1組女子 10"95	
3年男子 3組男子 9"73	2組男子 9"76	2組男子 9"89	
1000m走第1位 1年 1組女子 3'44"	2年 1組女子 3'17"	3年 2組女子 3'20"	
1500m走第1位 1年 1組男子 5'34"	2年 1組男子 5'05"	3年 3組男子 4'48"	
色別対抗棒引き <女子> 赤組 黄組 白組	<男子> 白組 赤組 黄組		
色別対抗綱引き <女子> 赤組 黄組 白組	<男子> 赤組 白組 黄組		
1年学年種目「南二のわたしと大鯉」	2組	1組	3組
2年学年種目「笑顔で団結(大縄跳び)」	2組	1組	3組
3年学年種目「大ムカデ」	3組	1組	2組
クラス全員リレー <1年> 1組	2組	3組	<2年> 3組 1組 2組
<3年> 3組	1組	2組	
学級対抗リレー 1年 <女子> 2組	3組	1組	<男子> 2組 3組 1組 1組
2年 <女子> 3組	1組	2組	<男子> 3組 1組 2組
3年 <女子> 1組	2組	3組	<男子> 1組 2組 3組
色別対抗リレー 黄組 赤組 白組			
学年優勝 1年 2組 2年 3組 3年 1組			
総合優勝 赤組 704点	黄組 672点	白組 615点	

3年生 修学旅行

5月16日(金)から18日(日)は、3年生の修学旅行でした。3日間、天候に恵まれ、参加者全員が全行程を予定通りに行うことができました。

1日目は京都東山を中心にした班行動を行いました。どの班も市バスなどを使い、清水寺や三十三間堂など、自分たちで計画したコースを巡りました。夜は護王神社で勇壮な舞楽とかわいらしい舞妓さんの京舞の鑑賞をしました。2日目は貸し切りタクシーでの班行動でした。金閣寺や平等院を見学しながら奈良公園に入り、大仏などを見学しました。3日目はクラスごとのバスに乗り、学年全体で行動し、薬師寺と法隆寺を見学しました。薬師寺のお坊さんの話と世界最古の木造建築が印象的でした。

3年生は、「歴史や街並みにふれ、きまりを守り、一生の思い出にしよう」と修学旅行に臨みました。また、班行動中やホテルなどでは「大人の判断をする」を合い言葉

に、行動を自分たちでコントロールしてきました。一人の体調不良者も出ず、楽しい思い出がたくさんできたのは、この行動のためだったと思います。3年生は素晴らしい思い出と一緒に新大阪から新幹線に乗り、たくさんのお土産とともに東京に戻ることができました。



晴天に映える金閣寺



法隆寺山門前でクラス集合写真



奈良公園の鹿と

6月24日は開校記念日です

6月24日は南千住二中の開校記念日、いわば南二中の誕生日です。授業数の確保のため、お休みではなく(現在はほとんどの中学校の開校記念日は授業日です)、通常の授業を行いますので、忘れがちかもしれませんが、南千住二中にとっては大切な記念日です。

南千住二中は平成元年(1989)年4月、荒川第二中学校と南千住中学校が統合されて誕生しました。校名はこの2つの中学校からとったものと思われます。当時、荒川区内には15の公立中学校がありました。現在は統合が進んで10校になっています。その統合の一番最初が荒川二中和南千住中で、誕生したのが私たちの南千住二中です。南千住二中の校舎は荒川二中の跡地に建てられました。南千住中は、現ふるさと文化館の場所にありました。南千住二中は荒川二中の校舎でスタートしました。その校舎は現在の校庭の直線部分にありました。荒川二中の校庭に現在の校舎ができ、古い校舎を取り壊して直線部分になったのです。そのため、学校には珍しく、北側に校庭の一部があるのです。

統合当時は、生徒も先生も大変な苦勞をしたようですが、新たな伝統作りにより一生懸命に取り組み、今の南千住二中の基礎を作ってくれました。先輩たちが作り上げ、思いが詰まったこの南千住二中をより一層発展させるという気持ちを新たにすることが開校記念日だとも言えるでしょう。

部活動の活躍

各運動部は「夏の大会」を迎えます。夏の大会は3年生にとっては最後の公式大会になります。今までの練習の成果を十分に発揮して下さい。

《陸上競技部》

東京都地域別陸上競技大会 女子200m走 3年女子

記録 28秒03 標準記録突破 東京都総合体育大会(都大会)出場決定

同大会に出場した他の部員(3年男子4名女子3名、2年男子2名女子1名)も暑い中、健闘しました。

南千住マイスターのコーナー

「解体新書」は世に出ると大きな反響を呼び、玄白は時の人となり、將軍の拝謁を許されるまでになりました。開業医として経済的にも豊かな後半生をおくりました。一方良沢は書齋にこもり、さまざまな蘭学書の翻訳をしますが、刊行すらしませんでした。玄白が「蘭学事始」で良沢を紹介してはじめて世はそのことを知ります。しかしそれは良沢が80年の生涯をとじた後のことでした。

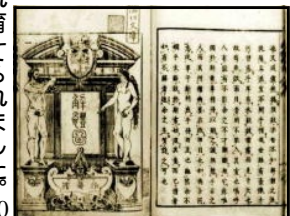
「解体新書」は世に出ると大きな反響を呼び、玄白は時の人となり、將軍の拝謁を許されるまでになりました。開業医として経済的にも豊かな後半生をおくりました。一方良沢は書齋にこもり、さまざまな蘭学書の翻訳をしますが、刊行すらしませんでした。玄白が「蘭学事始」で良沢を紹介してはじめて世はそのことを知ります。しかしそれは良沢が80年の生涯をとじた後のことでした。

良沢は、翻訳に不十分どころがあると発行を先に延ばすことを主張します。しかし玄白は医学の発展のためにも発行を決めます。根からの学者肌だった良沢は、翻訳者として名を連ねることを辞退したのです。オランダ語の力は玄白よりもはるかに優れ、翻訳作業の立役者は、実は玄白がのっていない良沢だったのです。

良沢は、翻訳に不十分どころがあると発行を先に延ばすことを主張します。しかし玄白は医学の発展のためにも発行を決めます。根からの学者肌だった良沢は、翻訳者として名を連ねることを辞退したのです。オランダ語の力は玄白よりもはるかに優れ、翻訳作業の立役者は、実は玄白がのっていない良沢だったのです。

南千住と歴史上の人物 その3 解体新書(2) 前野良沢

前回のコーナーでは回向院で行われた腑分けに関連した解体新書の「杉田玄白」を紹介しました。この解体新書発行のもう一人の功労者は「前野良沢」です。今回はこの前野良沢を紹介いたします。解体新書といえは、まず杉田玄白ですが、なぜ前野良沢はその次なのでしょう。



小塚原回向院 観蔵記念碑